

JRE 情報
ユニオン



THIS IS

イースト

自らを変える!! 明日を創る!! イースト イノベーション



ジェイアール・
イーストユニオン情報紙

第138号

令和元年 10月 15日 発行

jrtu-eu

検索



『マンガローブ』を凌ぐ、衝撃の超弩級ノンフィクション! 西岡研介氏による著書 「トラジャ」

9月20日、ノンフィクションライターの「西岡研介」氏の著書、『トラジャ』～JR「革マル」30年の呪縛、労組の終焉～(東洋経済新報社)が発売された。西岡氏而言えば、2008年に、「マンガローブーテロリストに乗っ取られたJR東日本の真実」で、講談社ノンフィクション賞を受賞している。昨年6月には、「JR連合6・12民主化闘争決起集会」において、「これから始まるJR東日本の本当の戦い」と題した特別講演をいただいた。その当時の週刊東洋経済に、短期集中連載となった「JR歪んだ労使関係」、この連載記事の内容に追加取材を重ね大幅に加筆されたものとなっている。

「マンガローブ」とは、国鉄・分割民営化前年の1986年、極左暴力集団「革マル派」のナンバー2だった故・松崎明氏が、分割・民営化後のJR各社の労働組合における「革マル派組織の防衛と拡大」を目的に、JR内革マル派(JR革マル)の優秀な幹部活動家を集め結成した秘密組織の呼称であり、「トラジャ」とは、「マンガローブ」と同様に、同氏が作った革マル派の秘密組織で、有能な構成員を、「職業革命家」として革マル派党中央に送り込んだメンバーに付けられたコードネームである。マンガローブをはじめ、革マル派傘下の各産別労組の指導にあたらせたという。著者の西岡氏は、前著に続いて革マル派の秘密組織のコードネームをメインタイトルに据えたのは、この本が『マンガローブ』の続編という性格を持つからだけではなく、今回のJR東労組の「スト権行使」通告や、それを機に始まったJR東労組の崩壊にも、この「トラジャ」が深い影を落としているからだ、と本書について紹介している。また、今なお、影響力を行使し得る立場に革マル派活動家が相当浸透しているとされるJR総連傘下单組を「最大組合」として抱える、JR北海道やJR貨物の実態にも迫ったものとなっている。(東洋経済オンラインより)



本書が伝えようとする、その一つは、労働組合のあり方を考えることではないだろうか。私たちは、JR産業を支え続けるためにも、ひとり一人が現実に向き合い、未来を創造し、その力となっていかなければならない。だから、しっかりと真実を知ること、捉えることが大切である。